九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Changes in maternal consciousness after childbirth and related paternal and family support

宮中, 文子

https://doi.org/10.15017/458567

出版情報：九州芸術工科大学, 2003, 博士（芸術工学）, 論文博士
バージョン：
権利関係：

第3章　結果

第1節　育児不安の時期と件数

子育てに強い不安や困難感があり，追跡した事例は，初産婦24人，経産婦16人，合計40人であった．育児相談を行った時期とその事例数は，表VI－1に示すように10か月では32例に行い，18か月ではその他に8例増え，合計40例に育児相談を行っている．

表VI－1　育児不安の内容別件数（%）　N=40　重複内容

出産後	乳児との関わり		夫・家族・社会との関わり			計	育児相談事例数
	育児の仕方の不安	乳児の病気身体的問題	夫との関係	社会との関係	家族との関係		
1か月	21 (67.8)	7 (22.6)	1 (3.2)	1 (3.2)	1 (3.2)	31 (100)	0
10か月	11 (44.0)	3 (12.0)	4 (16.0)	5 (20.0)	2 (8.0)	25 (100)	32
18か月	27 (56.3)	4 (8.3)	10 (20.8)	5 (10.4)	2 (4.2)	48 (100)	40
36か月	14 (48.3)	6 (20.7)	5 (17.2)	2 (6.9)	2 (6.9)	29 (100)	40
計	73 (54.9)	20 (15.0)	20 (15.0)	13 (9.8)	7 (5.3)	133 (100)	40

第2節　育児不安の具体的内容

育児不安の具体的な内容について，質問紙調査の最後の項目の「子育てについて不安に思っていること，感じたことなど自由にお書き下さい」の自由記述欄に，母親が記載した内容の概略を表VI－2に示す．

第1項　育児の仕方について

出産後1か月では「どうしたら泣きやんでくれるのかわからない」，「お乳だけでいけるのか不安」など初めての育児でのとまどいや母乳哺育に関することがみられた．10か月では「上の子をどうしつけたらよいか」，「ときどき育児がいやになる」など，上の子の養育や関係のとり方がわからず戸惑ったり，育児の困難や負担の気持ちがみられた．18か月では「思う通りにならないと泣きわめく時ついカッとなり叩く」，36か月では「いうことを聞かない時暴力を振るう」，「イライラして自分の感情をコントロールできない」など衝動的な行動がみられた．育児不安の内容は，経時的に変化し，乳児との関係の取り方に歪みが生じていると思われた．

第2項　乳幼児の病気や身体的問題について

1か月では「成長発達は普通にできるか不安」と乳児に未熟児や疾患があることによる不安であった．10か月では「発達が遅いのが気がかり」と発達の心配，18か月，36か月では，アレルギー，喘息，風邪，O脚，痣など身体的な問題に対する具体的な心配があった．乳児によりそれぞれ異なる身体的な問題がみられた．

第3項　夫との関係について

1か月では「もっと協力して欲しい」，10か月では「仕事が忙しく手伝ってくれない」，「夫は言葉に出さないので不満」，18か月では「もう少し妻に気を配って欲しい」，「風邪を引かせたのはお前のせいだという夫に腹が立つ」，36か月では「夫の浮気が心配」，「夫は自己中心的で私の子育ての大変さをわかってくれない」，「子どもは私ばっかり，夫が少しでもみてくれたらよいのに」などであった．子育てを母親一人で引き受けていることによる負担感がみられた．

出産後，子育てを通して夫婦間の人間関係の親密性が深まる時期であるが，事例では父親の子育てへの関心が低いことにより，母親の夫に対する感情の悪化が認められていた．

第４項　社会との関係について

１か月では「職場復帰したいがよい保育所がないか」，10 か月では「乳児健診での保健婦の発言に傷ついた」，18 か月では「健診で異常児発見所のようで傷ついた」，「近所のおばさんが行動をチェックするのに切れる」，36 か月では「保育所が老朽化しクーラーもなく心配」，などであった．子育てを通して社会との関係も生じるが，それがストレスとなることもあると思われた．

第５項　家族との関係について

１か月では「義母に子どもを見てもらうが育児方針が一致しないか心配」，10 か月では「義父母との育児方針の違いにストレスを感じる」など，18 か月では「２人の子どもの世話の他に寝たきりの義母の世話で大変なことを義姉は理解しない」，36 か月では「退院した義母の面倒を見なければならない」などであった．義父母の世話から来る負担感や人間関係がストレスの原因となっていると思われた．

表Ⅵ－２　育児不安の具体的内容　　N=40　重複内容

		1か月	10か月	18か月	36か月
乳児との関わり	育児の仕方	＊どうしたら泣き止んでくれるのかわからない， ＊お乳だけでいけるのか不安， ＊（泣いたり眠らない時叩い，たりしたくなるのが怖い）	＊ときどき育児がいやになる， ＊上の子が下の子に乗るので叱るとなおやる，どうしつけたらよいか， ＊（子どもを愛しているが傷つけそうな不安）	＊自分の思い通りにならず泣きわめく時，かっとなり叩く， ＊上の子と下の子はどう接すればよいのか， ＊（かわいく思えない，泣きわめく時，怒り叩く，切れて叩く，心が荒々しく乱れる）	＊トイレットトレーニングうまくいかない， ＊他の子と遊べない， ＊いうことを聞かない時暴力を振るう，夫も暴力振るうので，（子どもは）アザだらけ，外へ出さないようにしている，イライラして感情コントロールできない，
	病気	＊未熟児，＊○症といわれた，成長発達は普通にできるか，	＊発熱， ＊発達遅いか気がかり，	＊O脚，赤痣，どこに相談したらよいか，＊発達遅延，＊アレルギー，	＊アレルギー，＊X脚， ＊喘息，＊風邪，
夫や家族・社会との関わり	夫	＊夫がもっと協力して欲しい，	＊夫は仕事忙しく手伝ってくれない， ＊夫は言葉に出さず不満，	＊もう少し妻に気を配って欲しい， ＊風邪を引かせた時お前のせいだという夫に腹が立つ，	＊夫の浮気が心配， ＊夫は自己中心的で子どもも私にばかり付きまとう， ＊夫は全くしない，＊仕事を始めたので夫との時間が少ない，
	社会	＊職場に早く復帰したいのでよい保育所がないか，	＊保健婦の家庭訪問あったが何もしてもらえずショック， ＊乳児健診での保健婦の発言に傷つくこと多いもう少し改めて欲しい，	＊保健所での健診で異常児発見所のようで傷ついて帰ってきた． ＊心のケアが含まれてなく不満， ＊いい小児科医師を選ぶポイントは， ＊近所のおばさんが私の行動をチェックするのに切れる，	＊公立保育園の老朽化でクーラーもなく部屋もとても狭い，親として心配，
	家族	＊仕事に行く時子どもは義母にみてもらうが育児方針が一致しないか心配，	＊家族の協力なしには次子は産めない， ＊義父母と同居，子育て方針の違いにストレス，	＊２人の子どもの世話の他に寝たきりの義母の世話を全部してるが，大変なことを義姉は理解してくれない，	＊子育てで精一杯なのに退院した義母の面倒をみなければならない，

（　）：抑鬱神経症の既往がある事例

第3節　「乳幼児への虐待」の生起が危惧され虐待グレーゾーンにあると思われる7事例について

育児不安事例 40 人のうち，初産婦6人，経産婦1人に，「乳幼児への虐待」が潜在しているか，その生起が危惧される母親について，自由記述欄に，母親が記載した内容の概略を表VI－3に示した．

これらの母親では，乳児に対して「叩く」などの衝動的な行為をしていることが認められ，その程度は明らかではないものの日常的に行っていると推測された．

第1項　乳幼児を衝動的に「叩く」母親について（事例1～6）

事例1～6の母親では，しばしば衝動的に幼児を叩いていた．具体的には，事例2では，18 か月時，「絶対手を出すまいと思っていたのに一度やってからは1日1回は手がでます．それも子どもの危険を回避するためでなく，自分の都合（カーペットにお茶をこぼしたとか，書類をひっくりかえしたりとか）で，いけないと思いつつ，突き飛ばしたり，背中を叩いたり，このままエスカレートしたらと恐くなることがあります」とあった．事例3では，18 か月時に，「1歳を過ぎた頃から自己主張がかなり激しく，自分の思い通りにならないと，いつまでも泣きわめいています．今はそういう時期だとわかっていても，ついつい，ひどい怒り方をしたり，時には叩いたりします．どういう気持ちで乗り越えればいいのでしょうか．」とあった．

この母親達の全てに，出産後1か月時および 10 か月時において，育児不安や育児困難感が見られていた．18 か月時になって初めて，叩く行為が生じていた．「子どもがいうことをきかず思わず手を上げる」，「泣きわめくと切れて叩く」などにより叩いている．直接的な理由は，「聞き分けがない」，「思い通りにならないと泣きわめく」など，乳幼児の態度や行動に対してであった．また，それぞれの乳幼児の背景には，身体的問題として，発育遅延，アレルギー，変な癖などがあった．それぞれの乳児により異なる特性に起因して，母親の育て難さが生じていて，それが，母親の育児困難感や負担感を大きくしているものと考えられた．母親自身が「叩く」ことをしばしばやってしまう自分を責め，どうしたらよいかとも記述していた．母親は乳児との相互関係に歪みを来していると考えられた．

これらの母親では共通して，非抑鬱が低く，すなわち抑鬱傾向が高いことが認められた．母親意識は，事例１，２では高値であるが，他の事例では低値であった．夫婦関係の親密度は事例１，２，７では高いが，他の事例では低かった．これらの母親に対する文書による返答は一方通行の指導となり，母親の反応がすぐに把握しにくいことから，指導においては特に次のことに留意した．
①母親の育児の大変さに理解を示し，決して母親を責めず受け止めること，
②叩いた後で最悪の気持ちになるより，カッとなった瞬間の自分に気付くよう「今，お母さん怒ってるよ」と口に出してみること，
③乳幼児の月例に相当する発達の特徴について説明することなどであった．

第２項　抑鬱神経症の既往のある母親について

事例７は上述の事例とは異なり，抑鬱神経症の既往がある母親である．出産後１か月時から「泣いたり，眠らない時などつねったり，叩いたりしたくなるのが怖い」と不安な症状があった．10 か月で，「夫が時々話をきちんと聞いてくれない，（略）心を打ち明ける人がなく一人で考え込むことが多く（略），自分を傷つけることで心の乱れが落ち着きます（略）」などの記述がみられた．実際に「乳幼児への虐待」はないと思われるが，育児の負担感で追いつめられていて，強い育児不安の状態と判断した．そのため，産後 10 か月に文書による相談の他，電話相談を案内した．その後，14 か月でも「子どもを傷つけそうで不安」とする脅迫的な不安が続いていた．最終的に電話相談は来なかったが．18 か月の質問紙調査の回答に同封して，便箋で長い記述があった．その内容は，婚前に抑鬱神経症の既往があったこと，これまではコントロールできていたこと，夫や家族に隠してていたこと，更には，本人自身が幼少時に母親から愛されていなかったと感じていること．本人が幼児期に母親が離婚し，生別したこと，夫とは恋愛結婚であること，夫には育児で迷惑をかけたくない気持ちが強いことなど，これまでを想起して書かれていた．乳児に対する相反する感情に自分だけで葛藤していると考えられた．この記述から，緊急に電話相談や訪問指導の必要があるのではないか，出産した医療施設や居住地域の保健所への連絡をすべきか迷った．しかし，母親自身が相談する行動を起こすのが最もよいと考えたことや，父親への質問紙調査の回答では父親意識も高く，乳幼児との関わりも多いことから，緊急的な連

絡はせずに文書による返答を繰り返した．返答内容は次のようなものである．
①子育ては誰しも一人でできるものではないこと，
③夫に支援を求めるよう，
④精神科医師に相談すること，
⑤社会資源として保育所，福祉事務所，保健所の利用の仕方などがあること，などとした．これに加えて，電話相談を案内し，とても辛い時に，いつでも電話をかけてよいと説明した．

この事例は，抑鬱神経症の既往を持つことなど，パーソナリティの脆さが，育児というストレスで増幅したものと考えられた．その後，36か月では，「4月から保育園に入り，余裕を持って接するようになった」とあり，「時にイライラしコントロールできない私のはけ口に（子どもが）なっている．（略），夫になぐさめられる」などとあった．夫が精神的に支えている様子がわかり，保育園との繋がりもできて，安定してきたと考えられる．

表VI－3　乳幼児への虐待（child abuse）が危惧され虐待グレーゾーンにあると思われる7事例

事例	属性	出産後18か月						1か月	10か月	18か月	36か月
		母親意識	父親意識	父親の精神的支援	肯定的自己価値観	非抑鬱傾向	夫婦関係の親密度				
1	26歳，初産，核家族，無職，短大卒，第1子，女児	高	高	高	高	低	高	初めてのお産で不安だらけ．1カ月経過した今ようやく子どものいる生活に慣れた．	顔や様子を見ると要求が分かるようになり，「子どもがこんなに可愛いとは思わなかった，つらいこともありますが．	ついカッと怒って手を挙げてしまうことが多くなり，後から悪いと反省，「子どもは叱らず話し合いで」の方針だったが．	次女が生まれて上の子が変化，幼稚園児，反抗して私の心を引こうとイヤの連発，つい手を出し，私があたりちらしていたからなのか？，長女はさみしいのか，自責の念．
2	29歳，初産，核家族，無職，大学卒，第1子，女児	高	高	高	高	低	高	満腹でおむつがきれいでも泣くことがありどうして泣いているのかわかってやれない．	時々「もう育児はいや」と思うが頼ってくれる子どもがいて幸せ．	1日1回は手が出てつきとばしたり，たたいたりする．	下の子が生まれ，育児に手がかかり，上の子をガマンさせてしまう，上の子が夜中に時々大声で泣くのはそのストレスか．
3	30歳，初産，核家族，無職短大卒，第1子，男児	低	高	低	低	低	低	母乳が足りずミルクを足しているがアトピーならないか不安．	子育ての大切さ実感，親も共に成長したい．	思い通りにならず泣きわめく時、子どもをひどく怒り叩く．	子育て楽しむ余裕，心からかわいいと思える．
4	31歳，初産，核家族，無職高校卒，第1子，男児	低	低	低	低	低	低	母乳がうまくあげられない，私が抱くといやがる．子育ては大変とつくづく思う．	夫が非協力，社会・保健所も対応が冷たい毎日がうっとおしくもう子どもはいらない．	子どもを生むのをやめておけばよかった．夫は全然相談にのってくれず，子どもはかんしゃくをおこし易くものを投げたり大声を出す．将来少年Aのようにならないか，せっかんしていると思われつらい．私の子育ては間違っているのか不安と苦しみでいっぱい．	アレルギも相変わらず，X脚といわれたりケガをよくして病院へ走る毎日，最近口もたっしゃでとてもうるさく言うこと聞かない時，子どもに暴力を振るってアザだらけ，近所に虐待といわれるのがうっとおしい．私だけでなく夫も暴力を振るうので表に出さないようしている．
5	29歳，経産，核家族，無職短大卒，第2子，女児	低	高	低	低	低	低	上の子はまだ1歳8か月，外遊びできず．	上の子が下の子に乗ったり床に押したりする．叱ったり叩いたりするとなおさらやる．	切れる，上の子への体罰の影響が心配 泣いて反省し子どもに謝るが，次第に扱いにくくなる．恨みの気持ちは消えるか．	家族全員元気．こんな簡単な返事で何がわかるの（わかって欲しい）
6	24歳，初産，無職，短大卒，第1子，女児	低	低	高	低	低	低	痛いとか何をして欲しいのか，言葉で言ってくれないので不安，夜、泣き続けると心配．便が毎日でないのでつらそう．	自分たちの子育て見て周りでごちゃごちゃ言われるとパニック．勉強なることもあるが毎日電話してきてこうするとアトピー治るとか言われ悩む．	1歳を過ぎた頃から，うつぶせになり，身体をそらせるので手をたたいて怒っている，	子どもを虐待しているのではないかとやや思う．
7	27歳，初産，核家族，無職高卒，（抑鬱神経症既往あり）第1子，女児	高	高	高	低	低	高	泣いたり眠らない時などつねったり叩いたりしたくなるのが怖い．自分自身の体力と感情がいつまでもつか不安．	夫が時々話きちんと聞いてくれない．心打ち明ける人なく一人で考え込む．自分傷つけることで心の乱れ落ち着く．	子どもを傷付けるつもりない，自身を傷つけることで，何故か心の荒々しい乱れが静まる．	4月から保育園に，余裕持って接するように．時にイライラしコントロールできない私のはけ口になっている．夫になぐさめられる．

高：平均値より高い　　低：平均値より低い